

日本女子大学大学院文学研究科  
英文学専攻平成 22 年度開講科目

一博士課程前期一

近代英文学講義 I-1

前期

2 単位

佐藤 達郎

【授業目的・内容】

イギリス・ルネサンス研究。Shakespeare, *The Twelfth Night* を精読するとともに、第一次・二次資料の取り扱い方について検討する。

【授業計画】

1 回に 70 行程度の精読を目標にする。

【成績評価の方法】

日常の購読の成果。

【使用テキスト】

テキストの購入方法については、第一回目の授業で指示する。

【その他】

*Oxford English Dictionary* を使いこなされるようにしていただきたい。

近代英文学講義 I-2

後期

2 単位

佐藤 達郎

【授業目的・内容】

イギリス・ルネサンス研究。Shakespeare, *The Twelfth Night* を精読するとともに、第一次・二次資料の取り扱い方について検討する。

【授業計画】

1 回に 70 行程度の精読を目標にする。

【成績評価の方法】

日常の購読の成果。

【使用テキスト】

テキストの購入方法については、第一回目の授業で指示する。

【その他】

*Oxford English Dictionary* を使いこなされるようにしていただきたい。

近代英文学演習-1

前期

2 単位

新見 肇子

【授業目的・内容】

ロマン主義 (1780 年～1830 年) に書かれた、主要作家だけでなく、あまり知られていない作家の作品をも精読し、イギリス・ロマン主義とは何かを理解する。とくに作品が生み出されたさまざまなコンテキストに注目した解説を参考にしながら、主として詩作品を読む。

【授業計画】

テキストに沿って以下のように読む予定。

第 1 回 序

第 2 回～3 回 Romantic poems and contexts

第3回～4回	Versions of British Romantic writing
第5回～6回	Defences of poetry
第7回～8回	Women writers and readers
第9回～10回	Reading <i>The Prelude</i>
第11回～12回	Romantic verses narrative
第13回～14回	Reading Byron

【成績評価の方法】

クラスでの発表、課題、出席率を総合的に判断して評価する。

【使用テキスト】

*Romantic Writings*, ed. Stephen Bygrave (Routledge)

【参考書 (参考資料等)】

各トピックについての参考文献は、クラスで適宜紹介する。

近代英文学演習-2

後期

2単位

新見 肇子

【授業目的・内容】

前期に引き続き、解説を参照しながら、イギリス・ロマン主義時代の作品を読み、ロマン主義とは何かを探る。作品だけでなく、批評論文も読む。

第1回～2回	Women poets
第3回～4回	Romantic allegory
第5回～6回	Colonialism and the exotic
第7回～8回	Reading Kleist and Hoffman
第9回～10回	Stuart Curran: 'Romantic poetry: The I altered'
第11回～12回	Raymond Schwab: 'The oriental renaissance'
第13回	Sigmund Freud: 'The uncanny'
第14回	Rene Wellek: 'The concept of Romanticism in literary history'

【成績評価の方法】

クラスでの発表、課題、出席率を総合的に判断して評価する。

【使用テキスト】

前期に同じ。

【参考書 (参考資料等)】

前期に同じ。

現代英米文学演習-1

前期

2単位

上岡 伸雄

【授業目的・内容】

9/11テロ事件のような圧倒的な暴力を、文学はいかに表現するのか？ いや、そもそも、こうしたテロ行為を目の当たりにして、文学に何ができるのか？ この授業では、直接的であれ間接的であれ、9/11テロ事件と関連したアメリカの文学作品を取り上げ、こうした問題を考えていきたい。最初は評論を読むことから始め、次に文学作品の中から一つ選んで精読する。

**【授業計画】**

最初はプリントを配布し、Ann Keniston & Jeanne Follansbee Quinn (eds.) *Literature after 9/11* の論文を読む。それによって、作品や主題について概観してから、Jonathan Safran Foer, *Extremely Loud and Incredibly Close* (2005)、John Updike, *Terrorist* (2006)、Cormac McCarthy, *The Road* (2006)、Claire Messud, *The Emperor's Children* (2006)、Don DeLillo, *Falling Man* (2007) などの中から選んで精読していく。

**【成績評価の方法】**

普段の授業への貢献度が何より重要。さらに学期末のレポートを勘案して評価する。

**【使用テキスト】**

授業時に指示する。

**【参考書】**

授業時に指示する。

**【その他（受講生への要望など）】**

毎回、各自がかなり調べてくること。範囲のすべてを翻訳できるくらいに準備し、授業に参加することが求められる。

**現代英米文学演習-2**

後期

**2単位**

上岡 伸雄

**【授業目的・内容】**

前期に引き続き、9/11 テロ事件と関連したアメリカの文学作品を読む。前期に紹介した文学作品の中から選んで読んでいき、最終的には自分で作品を選び、論文を執筆することを目的とする。

**【授業計画】**

Jonathan Safran Foer, *Extremely Loud and Incredibly Close* (2005)、John Updike, *Terrorist* (2006)、Cormac McCarthy, *The Road* (2006)、Claire Messud, *The Emperor's Children* (2006)、Don DeLillo, *Falling Man* (2007) などの中から選んで精読してゆく。書評や論文も取り上げ、それについてディスカッションし、最終的に「9/11 テロ事件とアメリカ文学」についての論文を執筆する。

**【成績評価の方法】**

普段の授業への貢献度が何より重要。さらに学期末のレポートを勘案して評価する。

**【使用テキスト・参考書】**

授業時に指示する。

**【その他（受講生への要望など）】**

毎回、各自がかなり調べてくること。範囲のすべてを翻訳できるくらいに準備し、授業に参加することが求められる。

米文学演習-1 前期 2単位 大場 昌子

【授業目的・内容】

ユダヤ系アメリカ人作家 Saul Bellow (1915–2005) の作品を取り上げ、さまざまな側面から作品を分析する。

【授業計画】

The Victim (1947) を読む。また、出版された当時から現代にいたるまでの批評の変遷を、代表的な評論を読むことで把握する。

毎回、分担した箇所について各自発表していただき、それについて全員で意見交換を行っていく。

【成績評価の方法】

テキストについてレポートを書いていただく。

【使用テキスト・参考書】

Saul Bellow, The Victim

【その他 (受講生への要望など)】

まずは正確にテキストを理解し、その上で多面的に問題意識をもってテキストを分析する姿勢を養っていただきたい。

米文学演習-2 後期 2単位 大場 昌子

【授業目的・内容】

ユダヤ系アメリカ人作家 Saul Bellow (1915–2005) の作品を取り上げ、様々な側面から作品を分析する。

【授業計画】

The Adventures of Augie March (1953) を読む。

毎回、分担した箇所について各自発表していただき、それについて全員で意見交換を行っていく。

【成績評価の方法】

テキストについてレポートを書いていただく。

【使用テキスト・参考書】

Saul Bellow, The Adventures of Augie March

【その他 (受講生への要望など)】

まずは正確にテキストを理解し、その上で多面的に問題意識をもってテキストを分析する姿勢を養っていただきたい。

英語学講義-1 前期 2単位 松森 晶子

【授業目的・内容】

この授業では、学部 of 音声学、音韻論の基礎的訓練を終了した学生を対象に、音韻論中級の訓練を行う。前期は、テキストを読みながら、音韻論の抽象化の問題、携帯音韻論の方法、音節構造、プロソディー (アクセント、イントネーションなど) 研究の課題についての知見を得る。

単なる概説ではなく、具体的なデータを学生ひとりひとりが分析していただくこと

によって、音韻体系や規則性を発見する方法を、学生自身が体得できるよう指導する。

#### 【授業計画】

各学生がそれぞれ割り当てられたテキストの部分について発表し、その内容に基づいて議論することによって授業を進める。それと平行して、課題として出された諸言語の音声データを、学生各自が分析をする、という課題を課す。授業では、その分析結果を分担の学生が発表し、皆で討論する。

- |          |   |
|----------|---|
| 第1回      | 形態音韻論、音節構造、アクセント、イントネーション研究についての概説。                 |
| 第2回～3回   | テキスト第5～6章をもとに、形態音韻論的基本的方法について学ぶ。                    |
| 第4回～5回   | テキスト第7～8章をもとに、形態音韻論のかかえる問題点について議論する。                |
| 第6回～8回   | テキスト第9章をもとに、規則の生産性と実在性について議論する。                     |
| 第9回～10回  | テキスト第10～12章をもとに、音韻分析の抽象化、および共時的分析を通時的考察の関連について議論する。 |
| 第11回～14回 | テキスト第13～14章をもとに、音節構造を用いた分析の利点、アクセント研究の方向性について議論する。  |

#### 【成績評価の方法】

授業への参加 (30%)、発表の準備 (30%)、課題レポート、および最終の自由レポートの評価 (40%)

#### 【使用テキスト】

Bruce Hayes (2009). *Introductory Phonology* (Blackwell). の第5章 (Morphology) から。

#### 【参考書 (参考資料等)】

- 柴谷方良ほか『言語の構造 音声・音韻篇』くろしお出版  
窪園晴夫・本間猛 (著)『音節とモーラ』研究社

#### 【その他 (受講生への要望など)】

調音音声学と音韻論の基礎的知識 (音素、示唆的特徴などの概念についての) が求められる。

## 英語学講義-2

後期

2単位

松森 晶子

#### 【授業目的・内容】

前期に引き続き、音韻論中級の訓練を行う。音韻研究の基礎的発想法と音韻分析の方法について学ぶ。後期は特に、日本語アクセント、イントネーション関連の論文を読み、その考察方法について考察する。

単なる概説ではなく、諸言語の具体的なデータを学生ひとりひとりが分析することによって、アクセントの体系、規則性を発見する方法を、学生自身が体得できるよう指導する。

## 【授業計画】

前期と同じく、学生による発表、およびその内容に基づく討論を中心にして授業を進める。また、後期は、期末レポートにつながる学生の自主研究について、各自が発表を行う。

- 第1回                    プロソディー研究の背景的知識についての概説。
- 第2回～3回           テキスト第14章をもとに、アクセント分析の方法論について考察する。
- 第3回～4回           テキスト第15章をもとに、イントネーション研究の基礎的知識について考察する。
- 第4回～6回           諸言語、あるいは日本語諸方言のアクセントに関する論文を読みながら考察を深めるとともに、その分析方法について考える。
- 第7回～9回           諸言語、あるいは日本語諸方言のイントネーションに関する論文を読みながら考察を深めるとともに、その分析方法について考える。
- 第10回～15回        日英語のプロソディーを扱った論文を読み、プロソディー研究の現状についての考察を深める。

## 【成績評価の方法】

授業への参加 (20%)、発表の準備 (30%)、期末レポート (50%)

## 【使用テキスト】

(1) Bruce Hayes (2009). *Introductory Phonology* (Blackwell). の第14章 (Stress, Stress Rules, and Syllable Weight)、および第15章 (Tone and Intonation)。

(2) 諸言語のアクセント、イントネーション関係の諸論文、概説書からの抜粋をテキストとして使用。(テキストは授業で配布)

## 【その他 (受講生への要望など)】

前期から引き続いて受講することが望ましいが、後期だけの受講も可。

## 英語学演習-1

前期

2単位

藤井 洋子

## 【授業目的・内容】

前期は、*Language Files* の Syntax 以降を扱うと共に、談話分析、会話分析、語用論、人類言語学、社会言語学などの基本的な考え方を通して、トランス・ディシプリナ視野から異文化で異なるコミュニケーションのあり方、言語文化の様相を解明していく。生のデータが語る会話やインターアクションの本質に迫る。

## 【授業計画】

院生による発表を軸に、ディスカッションを行いながら授業を進めていく。

## 【成績評価の方法】

授業への貢献度、期末のペーパー

## 【使用テキスト・参考書】

The Ohio State University, *Language files*.

Jaworski, Adam and N. Coupland (eds). 1999. *The discourse reader*. Routledge.

ほか、抜粋論文。

## 英語学演習-2

後期

2 単位

藤井 洋子

### 【授業目的・内容】

異文化で異なるコミュニケーションのあり方を、トランス・ディシプリンな視野から解明していく。後期は特に、学術論文や言語・文化論等の書物からの抜粋部分を読み、院生一人一人の研究に重要な研究の方向性の確認や言語観について深いディスカッションをすることを目標とする。

### 【授業計画】

院生による発表を軸に、ディスカッションを行いながら授業を進めていく。

### 【成績評価の方法】

授業への貢献度、期末のペーパー

### 【使用テキスト・参考書】

各ジャーナルからの抜粋論文の他、言語学の方法論、文化論など。

## イギリス文化講義-1

前期

2 単位

川端 康雄

### 【授業目的・内容】

イギリス 19 世紀のデザイナー・物語作者・社会主義者 William Morris (1834–1896) の *News from Nowhere* (1890) を主要なテキストとし、これを読みながら、Morris の芸術思想の特質と今日的な意義を、彼が生きたヴィクトリア朝イギリスの社会文化的コンテクストをおさえつつ考察する。

### 【授業計画】

- 第 1 回 導入——ウィリアム・モリスの生涯と仕事
- 第 2 回 Ch. 1. “Discussion and Bed” ユートピアン・ロマンスの仕掛け。
- 第 3 回 Ch. 2–4. ロンドンの変容。中世主義と未来社会。
- 第 4 回 Ch. 5–7. ガーデン・シティと化したロンドンをめぐる。
- 第 5 回 Ch. 8–10. 集団の記憶の貯蔵庫としての博物館での対話。
- 第 6 回 Ch. 11–13. ユートピアの政治。
- 第 7 回 Ch. 14–16. 労働・芸術・快樂。
- 第 8 回 Ch. 17–19. 変化はいかにして訪れたか。
- 第 9 回 イギリスの 1880 年代。社会主義運動とアーツ・アンド・クラフツ運動。
- 第 10 回 Ch. 20–22. ハマスミスに戻る。
- 第 11 回 Ch. 23–25. テムズ川の遡行。
- 第 12 回 Ch. 26–29. テムズ上流。
- 第 13 回 Ch. 30–31. ケルムスコット・マナーへ。
- 第 14 回 Ch. 32. 宴の終わり。ユートピアの批評機能。
- 第 15 回 まとめ

### 【成績評価の方法】

平常点（発表、議論への貢献、提出物）による

## 【使用テキスト】

Morris, William. *News from Nowhere and Other Writings*. Ed. Clive Wilmer. London: Penguin, 1994.

上記は *News from Nowhere* に加えて、芸術と社会をめぐる代表的なエッセイ、講演を収録している。

他に、以下の版は巻末の注が詳しくて便利である。

Morris William. *News from Nowhere* edited with an Introduction and Notes by David Leopold. Oxford: Oxford UP, 2003.

## 【参考書 (参考資料等)】

Coleman, Stephen, and Paddy O' Sullivan, ed. William Morris & *News from Nowhere*: A Vision for Our Time. Bideford, Devon: Green Books, 1990.

小野次郎『装飾芸術——ウィリアム・モリスとその周辺』青土社、1979年。

リンダ・パリ——『ウィリアム・モリス』多田稔訳、河出書房新社、1998年。

その他、授業中に適宜指示する。

## 【その他 (受講生への要望など)】

Morris の最もよく知られる著作に接することが、受講者の主要テーマに何らかのかたちで生かされることを期待する。

## イギリス文化講義-2

後期

2単位

川端 康雄

## 【授業目的・内容】

テーマはヴィクトリア朝における社会変革のヴィジョン。主要人物は批評家 John Ruskin (1819–1900)、デザイナー・物語作者の William Morris (1834–96)、そして唯美主義者を標榜した作家 Oscar Wilde (1854–1900)。1870年代から80年代にかけて高まった社会変革の理念が同時代および後世の社会に及ぼした影響力を及ぼしたかを、E. P. Thompson, Raymond Williams, Gill G. Cockram らに依拠して考察する。

19世紀イギリスでレッセ・フェール (laissez faire) 批判の論陣を張ったのは他にもいたのに、ラスキンが従来の美術批評の領域から越境して、1860年に *Unto This Last* を *Cornhill Magazine* に連載しはじめると、途端に保守陣営からものすごい非難を浴びて連載を打ち切れ、経済学に倫理問題を持ち込んだことが主因で、経済学の素人の妄言と罵倒・嘲笑された。ところが、20年後の1880年代には、彼は、おなじく経済学に倫理問題をぶつける議論がポイントになって、ニュー・リベラル派のみならず社会主義陣営から新時代の哲学者として称揚され、労働党の前身の独立労働党結成 (1893年) の影響源となった。その倫理的な社会思想が同時代にいかん反撥を受け、またいかに広く浸透したかをまず見てゆく。

その上で、1880年代に興隆した政治と芸術の両面での改革運動として、前者については、Henry M. Hyndman (1842–1921), Eleanor Marx (1855–98), Andreas Scheu (1844–1927) といった人物、Social Democratic Federation, Socialist League 等の組織の活動、後者については、Walter Crane (1845–1915), A. H. Mackmurdo (1851–1942), C. R. Ashbee (1863–1942) といったデザイナー、Guild of Hand-



crafts, Art Worker's Guild, また Arts and Crafts Exhibition Society 等の組織を通して展開された Arts and Crafts movement を取り上げ、両者に関与したモリスの活動の中身と理念を検討する。さらに Oscar Wilde のユニークなエッセイ “The Soul of Man Under Socialism” (1891) を取り上げて、唯美主義運動と社会主義運動が交錯する地点を考察する。

#### 【授業計画】

- 第1回 導入
- 第2回 ジョン・ラスキン——社会批評家の出現
- 第3回 経済学と倫理——*Unto This Last* の受容
- 第4回 フレデリック・ハリスン——実証主義的思考
- 第5回 ホブスン、ラスキン、ニュー・リベラリズム
- 第7回 ラスキンのセント・ジョージのギルド
- 第8回 ラスキンの社会主義者たち
- 第9回 モリス——「ロマン派の犯行者から革命派へ」の道筋
- 第10回 1880年代の社会主義運動——モリスを中心に
- 第11回 モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動
- 第12回 ラスキンのパイター——社会・政治・唯美主義
- 第13回 ワイルド「社会主義下の人間の魂」を読む
- 第14回 芸術と政治のアヴァンギャルド
- 第15回 まとめ

#### 【成績評価の方法】

平常点（発表、議論への貢献、提出物）による

#### 【使用テキスト】

Morris, William. *News from Nowhere and Other Writings*. Ed. Clive Wilmer. London: Penguin, 1994.

Ruskin, John. *Unto This Last and Other Writings*. Ed. Clive Wilmer. London: Penguin, 1986.

Wilde, Oscar. *The Soul of Man under Socialism and Selected Critical Prose*. Ed. Linda Dowling. London: Penguin Classics, 2001.

#### 【参考書（参考資料等）】

Cockram, Gill G. *Ruskin and Social Reform: Ethics and Economics in the Victorian Age*. London and New York: Tauris Academic Studies, 2007.

Thompson, E. P. *William Morris: Romantic to Revolutionary*. London, 1955; Stanford: Stanford UP, 1988.

Williams, Raymond. *Culture and Society, 1780–1950*. London: Chatto and Windus, 1958; rev. New York: Columbia UP, 1983.

その他、授業中に適宜指示する。

英語論文作成法・上級-1(ガリモア) 前期 2単位 ダニエル・ジョン・ガリモア

【授業目的・内容】

The purpose of this course is to help students develop their academic writing skills prior to submission of their thesis for the postgraduate degrees. Advice is offered on planning, writing and formatting the thesis, with students making individual appointments as required.

【授業計画】

Students visit the lecturer a number of times during the first semester for advice on planning and writing, and then as required in the second semester.

【成績評価の方法】

Students are required to submit a plan and abstract by the end of the first semester, a title by the beginning of November, and at least 7,500 words (or thirty pages) of the complete thesis by the third Friday in January. Candidates for the higher doctoral degrees should submit at least thirty pages by the beginning of February.

【使用テキスト】

Handouts are provided as necessary.

【参考書(参考資料等)】

The following resource should provide you with almost all the information you need for formatting your thesis correctly.

『MLA 英語論文の手引き』、北星堂、2005 年

【その他(受講生への要望など)】

Postgraduates have more freedom to plan their research and studies in their own way than do undergraduates, but with freedom comes responsibility and anxiety that one is doing the right thing. Please feel free to contact me at any time during the year if you have any concerns about the writing of your thesis. I am here to help you.

英語論文作成法・上級-1(ガリモア) 後期 2単位 ダニエル・ジョン・ガリモア

【授業目的・内容】

The purpose of this course is to help students develop their academic writing skills prior to submission of their thesis for the postgraduate degrees. Advice is offered on planning, writing and formatting the thesis, with students making individual appointments as required.

【授業計画】

Students visit the lecturer a number of times during the first semester for advice on planning and writing, and then as required in the second semester.

【成績評価の方法】

Students are required to submit a plan and abstract by the end of the first semester, a title by the beginning of November, and at least 7,500 words (or thirty pages) of the complete thesis by the third Friday in January. Candidates for the higher doctoral degrees should submit at least thirty pages by the beginning of February.

【使用テキスト】

Handouts are provided as necessary.

【参考書（参考資料等）】

The following resource should provide you with almost all the information you need for formatting your thesis correctly.

『MLA 英語論文の手引き』、北星堂、2005 年

【その他（受講生への要望など）】

Postgraduates have more freedom to plan their research and studies in their own way than do undergraduates, but with freedom comes responsibility and anxiety that one is doing the right thing. Please feel free to contact me at any time during the year if you have any concerns about the writing of your thesis. I am here to help you.

西洋古典・中性文学特論-1 前期 2 単位

川端 康雄

【授業目的・内容】

Ovidius (Publius Ovidius Naso, 43 B.C.–17 A.D.) の *Metamorphoses* をテキストとした古典ラテン語入門書を用いて、ラテン語文法の基礎固めを図ると同時に、西洋古典文学の傑作を原典で味読することを目的とする。

【授業計画】

- 第 1 回 導入
- 第 2 回 Charta Geographica
- 第 3 回 Europa et Taurus
- 第 4 回 Minerva et Arachne (Part 1)
- 第 5 回 Minerva et Arachne (Part 2)
- 第 6 回 Minerva et Arachne (Part 3)
- 第 7 回 Latona et Niobe (Part 1)
- 第 8 回 Latona et Niobe (Part 2)
- 第 9 回 Pan et Syringa
- 第 10 回 Callisto (Part 1)
- 第 11 回 Callisto (Part 2)
- 第 12 回 Callisto (Part 1)
- 第 13 回 Philemon et Baucis (Part 1)
- 第 13 回 Philemon et Baucis (Part 2)
- 第 14 回 Echo et Narcissus
- 第 15 回 まとめ

【成績評価の方法】

平常点による。

【使用テキスト】

Goldman, Norma, and Jacob E. Nyenhuis. *Latin via Ovid: A First Course*. 2nd ed. Detroit: Wayne State UP, 1982. 最初の数回はプリントを配布する。

【参考書（参考資料等）】

授業中に適宜指示する。

【その他（受講生への要望など）】

受講生はラテン語の初等文法をある程度学んでいる方が望ましいが、使用テキストはオウィディウスを介してラテン語を学ぶという趣向であるので、意欲があって予習復習の時間を十分に有する人であれば、初心者でも歓迎する。

西洋古典・中性文学特論-2 後期 2単位

川端 康雄

【授業目的・内容】

前期の西洋古典・中世文学特論-1 に引き続き、Ovidius (43 B.C.-17 A.D.) の *Metamorphoses* をテキストとした古典ラテン語入門書を用いて、ラテン語文法の基礎固めを図ると同時に、西洋古典文学の傑作を原典で味読することを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 導入
- 第2回 Charta Geographica
- 第3回 Europa et Taurus
- 第4回 Minerva et Arachne (Part 1)
- 第5回 Minerva et Arachne (Part 2)
- 第6回 Minerva et Arachne (Part 3)
- 第7回 Latona et Niobe (Part 1)
- 第8回 Latona et Niobe (Part 2)
- 第9回 Pan et Syringa
- 第10回 Callisto (Part 1)
- 第11回 Callisto (Part 2)
- 第12回 Callisto (Part 1)
- 第13回 Philemon et Baucis (Part 1)
- 第13回 Philemon et Baucis (Part 2)
- 第14回 Echo et Narcissus
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

平常点による。

【使用テキスト】

Goldman, Norma, and Jacob E. Nyenhuis. *Latin via Ovid: A First Course*. 2nd ed. Detroit: Wayne State UP, 1982.

【参考書（参考資料等）】

授業中に適宜指示する。

【その他（受講生への要望など）】

受講生はラテン語の初等文法をある程度学んでいる方が望ましいが、使用テキストはオウィディウスを介してラテン語を学ぶという趣向であるので、意欲があっ

て予習復習の時間を十分に有する人であれば、初心者でも歓迎する。

英米小説特論 I-1                      前期                      2 単位                      三神 和子

【授業目的・内容】

Frances Hodgson Burnett の *The Secret Garden* を中心に読み、イギリスにおける庭によせる思いを考察する。

【授業計画】

分担を決めて、*The Secret Garden* や庭のでてくる他の文学作品、及び庭の歴史について調べながら、章ごとに読み進む。

【成績評価の方法】

発表内容と期末レポート。

【使用テキスト】

テキストはプリントを配布。

英米小説特論 I-2                      後期                      2 単位                      三神 和子

【授業目的・内容】

イギリス文学において庭がどのように描かれているかを考察し、イギリスにおける庭についての考え、自然観について考える。

【授業計画】

分担を決めて、庭のでてくるイギリス文学について発表する。どの作品を扱うかは、受講者との相談のうえ決める。

【成績評価の方法】

発表内容と期末レポート。

【使用テキスト】

テキストはプリントを配布。

文学理論特論-1                      前期                      2 単位                      ソーントン不破直子

【授業目的・内容】

1960 年代以降の思想と文学理論の主要論文を読む。前期はリベラル・ヒューマニズムがいかに批判されたかを焦点として、構造主義、ポスト構造主義、新マルクス主義、フェミニズム、ナラトロジーの論文を読む。自分の興味ある作品・トピックをこれらの理論を使って論じたペーパーを書いていただく。

【授業計画】

1. Introduction
2. Ferdinand de Saussure
3. Roland Barthes, "To Write: An Intransitive Verb?"
4. David Lodge
5. Marxism and Neo-Marxism: Marx and Engels
6. —: Althusser
7. —: Balibar and Macherey

8. Simone de Beauvoir; Elaine Showalter
9. Sandra Gilbert and Susan Gubar
10. The Marxist-Feminist Collective
11. Roland Barthes, "The Death of the Author"
12. Jacques Derrida, "Before the Law"
13. M. M. Bakhtin
14. 前期ペーパーの構想を発表

【成績評価の方法】

自分が選んだ思想家、理論家の文献に関する発表と期末のペーパーによる。ペーパーの内容は、このコースで得たことを、修士論文、博士論文のテーマに試してみることを勧める。

【使用テキスト】

授業で取り上げるテキストはコピーを配布する。

【参考書 (参考資料等)】

Rice and Waugh, *Modern Literary Theory: A Reader*. 4th Ed. London: Arnold, 2001.

ソートン不破直子『ギリシアの神々とコピーライター「作者」のプラトンからIT革命まで』

文学理論特論-2

後期

2単位

ソートン不破直子

【授業目的・内容】

1960年代以降の思想と文学理論の主要論文を読む。後期は、新歴史主義、ポスト植民地主義のあと、ポストモダニズムと呼ばれる文化全般にわたる変革に関する文献を読む。

【授業計画】

1. Introduction
2. 前期提出ペーパーの発表とコメント
3. つづき
4. Hayden White
5. Stephen Greenblatt
6. つづき
7. Edward Said
8. ポストモダニズムの状況
9. Fredric Jameson
10. つづき
11. つづき
12. Ihab Hassan
13. Jean Baudrillard
14. 後期ペーパー (ポストモダニズム) の構想を発表

## 【成績評価の方法】

自分が選んだ思想家、理論家の文献に関する発表と期末のペーパーによって評価する。特に後期はポストモダニズム理論を多く読むので、現代のさまざまな社会現況、文学、芸術などをこれらの理論を適用して分析、理解する期末ペーパーを書くことをすすめたい。

## 【使用テキスト・参考書】

使用テキスト：

White, Greenblatt, Said の文献はコピーを配布する。ポストモダニズムに関しては、以下の本を使うので、各自で購入しておいてほしい。

Thomas Docherty, *Postmodernism: A Reader*. New York: Harvester Wheatsheaf, 1993.

## 【参考書（参考資料等）】

Rice and Waugh, *Modern Literary Theory: A Reader*. 4th Ed. London: Arnold, 2001.

ソーントン不破直子『ギリシアの神々とコピーライター「作者」の変遷、プラトンから IT 革命まで』

## 比較文学特論-1

前期

2 単位

ソーントン不破直子

## 【授業目的・内容】

前・後期を通じて、ギリシア古典から 21 世紀の IT 革命以後までの、西欧における「作者」(Authorship) の概念の変遷を、各時代の主要な文献の中に辿る。文献は古典ギリシア語、ラテン語から、西欧のさまざまな言語のものを扱うので、ほとんどは日本語で読む。前期は、プラトンからイギリス・ロマン派まで。

## 【授業計画】

1. イントロダクション
2. プラトン
3. アリストテレス
4. 旧約聖書
5. 聖アウグスチヌス
6. 中世の「作者」
7. 活版印刷と新大陸発見
8. フィリップ・シドニー
9. ミシェル・ド・モンテーニュ
10. ジョン・ロック
11. パトロンと「作者」
12. コピーライト／著作権
13. エドワード・ヤング、ウィリアム・ワーズワース
14. パーシー・ビッシャー・シェリー、ジョン・キーツ

## 【成績評価の方法】

授業中に扱った文献、あるいはそれに関係ある文献、あるいはこの時代のもの

で「作者」の概念が表れていると思うものを取り上げて、ペーパーを書いていた  
だき、それを評価する。

【使用テキスト】

ソートン不破直子著『ギリシアの神々とコピーライト——「作者」の変遷、ブ  
ラトンから IT 革命まで』学芸書林 (2007 年)

比較文学特論-2 後期 2 単位 ソートン不破直子

【授業目的・内容】

前・後期を通じて、ギリシア古典から 21 世紀の IT 革命以後までの、西欧にお  
ける「作者」(Authorship) の概念の変遷を、各時代の主要な文献の中に辿る。文  
献は古典ギリシア語、ラテン語から、西欧のさまざまな言語のものを扱うので、  
ほとんどは日本語で読む。後期は、マラルメから IT 革命後まで。

【授業計画】

1. 各自の前期提出の論文の発表を行う。
2. つづき
3. ステファヌ・マラルメ、T. S. エリオット
4. マルクスとエンゲルス
5. 「社会主義リアリズム」、ヴァルター・ベンヤミン
6. ジャン＝ポール・サルトル
7. ピエール・マシュレー
8. ジョルジュ・プーレ、ジャック・デリダ
9. ロラン・バルト、ミシェル・フーコー
10. ヴァージニア・ウルフ
11. ハロルド・ブルーム、サンドラ・M. ギルバートとスーザン・バー
12. フレドリック・ジェイムソン
13. IT 革命後の「作者」——マイクロソフト資本主義 対 デジタル共産主義
14. まとめ

【成績評価の方法】

各自が自分の教務ある作家の作品の中に、その作家の「作者」の概念がどのよ  
うに現れているかを分析して論じたペーパーを書いていただく。

【使用テキスト】

ソートン不破直子著『ギリシアの神々とコピーライト——「作者」の変遷、ブ  
ラトンから IT 革命まで』学芸書林 (2007 年)

比較文化・言語特論-1 前期 2 単位 唐須 教光

【授業目的・内容】

言語は人間に特有であると言われているが、その言語活動を可能にしている人  
間の能力、素質、傾向、環境とは何かを、人間と類人猿のコミュニケーションの  
特徴を問うことによって、理解しようとするものである。一年の終わりには、人  
間の言語を見るパースペクティブが広がっていることを目標にする。



**【授業計画】**

前期は主として、人類学者の刺激的な言語の起源に関するものを読み議論をします。先ず、種としてのヒトの位置づけから初めて、どのようにしてヒトは言語を獲得したか、ヒトの言語は他の霊長類のコミュニケーションと何が異なるのか、それが何をヒトにもたらしたのかを多角的に考察します。

**【成績評価の方法】**

平常点による。

**【使用テキスト・参考書】**

未定。受講者と相談の上決定する。

**【その他（受講生への要望など）】**

積極的にクラスに貢献するようにしてください。また、労を厭わないで、自らの力で考えるようにしてください。

**比較文化・言語特論-2**

後期

2 単位

唐須 教光

**【授業目的・内容】**

前期と同一のテーマを追求するが、後期は主として認知言語学からのアプローチを試みるつもりである。そこで問題となるのは、言語の能力と他の認知能力がいかに関連しているか、また、言語人類学的研究や、認知言語学的研究が一般的な言語理論とどのように関わってくるかも見てゆきたい。

**【授業計画】**

前期と同じように、各自の分担を発表してもらい、それに基づいて議論をしてゆく。

**【成績評価の方法】**

平常点。

**【使用テキスト・参考書】**

前期の終わりに指定する。

**【その他（受講生への要望など）】**

前期と同じ。

**イギリス文化特論-1**

前期

2 単位

佐藤 和哉

**【授業目的・内容】**

民話に関する入門的な研究書を正確に読むことを目的とします。受講者は英文を精読する根気とともに、取り上げられている研究者や作品について積極的に調べていくことが求められます。テキストは Tatar, Maria ed. *The Classic Fairy Tales*. NY and London: W. W. Norton, 1999 を用います。毎回担当者を決めて読んでいきます。また、必要に応じて、受講者によるミニ研究発表を入れるかもしれません。詳細は初回に説明します。

**【授業計画】**

上記を参照してください。

【成績評価の方法】

授業に対する貢献度と期末のレポートなどから総合的に判断します。

【使用テキスト・参考書】

「授業目的・内容」欄を参考にしてください。

【その他（受講生への要望など）】

民話の「研究」は、単に好きだ、ということではできません。研究史や方法論についての知識は不可欠です。またここで身につけたものは、ほかの文学作品や文化現象にも応用できますから、民話に直接興味がない人でもとりあえずのぞいてみてください。

イギリス文化特論-2

後期

2単位

佐藤 和哉

【授業目的・内容】

民話に関する入門的な研究書を正確に読むことを目的とします。受講者は英文を精読する根気とともに、取り上げられている研究者や作品について積極的に調べてくれることが求められます。テキストは Tatar, Maria ed. *The Classic Fairy Tales*. NY and London: W. W. Norton, 1999 を用います。毎回担当者を決めて読んでいきます。また、必要に応じて、受講者によるミニ研究発表を入れるかもしれません。詳細は初回に説明します。

【授業計画】

上記を参照してください。

【成績評価の方法】

授業に対する貢献度と期末のレポートなどから総合的に判断します。

【使用テキスト・参考書】

「授業目的・内容」欄を参考にしてください。

【その他（受講生への要望など）】

民話の「研究」は、単に好きだ、ということではできません。研究史や方法論についての知識は不可欠です。またここで身につけたものは、ほかの文学作品や文化現象にも応用できますから、民話に直接興味がない人でもとりあえずのぞいてみてください。

アメリカ研究特論 I-1

前期

2単位

白井 洋子

【授業目的・内容】

“American exceptionalism”について、アメリカ史の文脈から考察することを目的とする。アメリカ民主主義、アメリカニズムなど、アメリカ的価値観の底に流れるものは何か、またその変遷について、今日の状況の中で捉えなおすことができればと考える。

【授業計画】

授業テーマに関連する文献、論文を読み、討論する。歴史、社会、文化、思想の領域を行き来する討論、受講者の研究領域からの活発な討論が行われることを期待する。

## 【成績評価の方法】

口頭発表、授業参加、学期末レポートによる総合評価。

## 【使用テキスト・参考書】

Greil Marcus and Werner Sollors, eds., *A New Literary History of America* (Cambridge and London: Harvard University Press, 2009).

Francis G. Couvares, Martha Saxton, Gerald N. Grob, and George athan Billias, eds., *Interpretations of American History* 2 vols Eighth Edition (Boston: Bedford / St. Martin's, 2009).

上記の文献から、授業テーマと受講者の研究テーマに関連するものを選び読んでいく。また必要に応じて、雑誌記事、論文なども指示する。

## アメリカ研究特論 I-2

後期

2 単位

白井 洋子

## 【授業目的・内容】

“American exceptionalism”と結びつけて、人種とジェンダーの問題に焦点を当てる。さらには階級や格差などの経済的側面がこれらの問題にどうかかわっているのかを考察する。受講者がそれぞれの研究テーマと関連づけながら資料を読み、率直活発に議論し、知的に刺激し合う場となることを希望する。

## 【授業計画】

授業テーマに関連する文献、論文を読み、討論する。

## 【成績評価の方法】

口頭発表、授業参加、学期末レポートによる総合評価。

## 【使用テキスト・参考書】

Greil Marcus and Werner Sollors, eds., *A New Literary History of America* (Cambridge and London: Harvard University Press, 2009).

Gail Collins, *When Everything Changed: The Amazing Journey of American Women from 1960 to the Present* (New York, Boston, and London: Little, Brown and Company, 2009).

上記の文献から、授業テーマと受講者の研究テーマに関連する者を選び読んでいく。また必要に応じて、雑誌記事、論文なども指示する。

## 一博士課程後期一

## 近代英文学特殊研究-1

前期

2 単位

新見 肇子

## 【授業目的・内容】

個人面談により、研究課題、論文執筆、学会発表などについて話し合い、アドバイスをする。また、18 世紀から 20 世紀にかけてのイギリス文学の作品、批評について議論することにより、問題点を明らかにし、研究の方向性を考える。

## 【授業計画】

院生の必要に応じて、面接を行う。修士論文についてはテーマに関する議論、概要作成、原稿の添削など、個人指導を行う。

【成績評価の方法】

面接における準備、議論、提出物などを総合的に判断する。

【使用テキスト・参考書】

面接の際に適宜紹介する。

近代英文学特殊研究-2      後期      2 単位      新見 肇子

【授業目的・内容】

「近代英文学特殊研究-1」に同じ。

【授業計画】

「近代英文学特殊研究-1」に同じ。

修士論文に関しては、1 週間前に提出された原稿を添削し、次週面接において修正・加筆の必要性について議論する。

【成績評価の方法】

「近代英文学特殊研究-1」に同じ。

【使用テキスト・参考書】

「近代英文学特殊研究-1」に同じ。

英米文学特殊研究-1 (ソーントン)      前期      2 単位      ソーントン不破直子

【授業目的・内容】

20 世紀アメリカ文学の研究を、受講生の希望を考慮して行う。

【授業計画】

個人指導となるので、一人、一人の受講生との話し合いで計画をたてる。

【成績評価の方法】

当初の計画を達成しているか、否かによって評価する。

【使用テキスト・参考書】

受講生の必要に応じて指導する。

英米文学特殊研究-1 (三神)      前期      2 単位      三神 和子

【授業目的・内容】

児童文学も含めた 19, 20 世紀のイギリスの小説を中心に、学生の興味に応じて取り上げ、考察する。

【授業計画】

個人面接となるので、受講生ひとりひとりとの話しあいで、レポート提出回数、時期等について関して計画をたてる。

【成績評価の方法】

レポートによる。

【使用テキスト・参考書】

特になし。

英米文学特殊研究-2(ソーントン) 後期 2単位 ソーントン不破直子

【授業目的・内容】

20世紀アメリカ文学の研究を、受講生の希望を考慮して行う。

【授業計画】

個人指導となるので、一人、一人の受講生との話し合いで計画をたてる。

【成績評価の方法】

当初の計画を達成しているか、否かによって評価する。

【使用テキスト・参考書】

受講生の必要に応じて指導する。

英米文学特殊研究-2(三神) 後期 2単位 三神 和子

【授業目的・内容】

児童文学も含めた19,20世紀のイギリスの小説を取り上げ、考察する。

【授業計画】

個人面接となるので、受講生ひとりひとりとの話しあいで、レポート提出回数、時期等について関して計画をたてる。

【成績評価の方法】

レポートによる。

【使用テキスト・参考書】

特になし。

比較文学特殊研究-1 前期 2単位 ソーントン不破直子

【授業目的・内容】

比較文学の研究分野で、受講生の興味に応じた指導を行う。特に、日本比較文学会、日本比較文化学会などの専門学会で発表したり、学会誌に投稿したりするための、個別の論文指導を行い、研究者として自立できるように指導する。

【授業計画】

受講生と教員が同意したテーマに最も適した研究体制となるように、個別に時間などを決める。

【成績評価の方法】

受講生と教員が同意したテーマをどの程度達成できたかによって評価する。

【使用テキスト・参考書】

前もって決めたものはない。受講生と教員が同意したテーマに必要なものがあれば、指定する。

比較文学特殊研究-2 後期 2単位 ソーントン不破直子

【授業目的・内容】

比較文学の研究分野で、受講生の興味に応じた指導を行う。特に、日本比較文学会、日本比較文化学会などの専門学会で発表したり、学会誌に投稿したりするための、個別の論文指導を行い、研究者として自立できるように指導する。

【授業計画】

受講生と教員が同意したテーマに最も適した研究体制となるように、個別に時間などを決める。

【成績評価の方法】

受講生と教員が同意したテーマに最も適した研究体制となるように、個別に時間などを決める。

【使用テキスト・参考書】

前もって決めたものはない。受講生と教員が同意したテーマに必要なものがあれば、指定する。

アメリカ文学特殊研究-1(ソーントン) 前期 2単位 ソーントン不破直子

【授業目的・内容】

20世紀アメリカ小説の研究を、受講生の希望を考慮して行う。

【授業計画】

個人指導となるので、受講生と話し合いで計画を立てる。

【成績評価の方法】

当初の計画を満たしているか、否かによって評価する。

【使用テキスト・参考書】

受講生の必要に応じて指導する。

アメリカ文学特殊研究-1(大場) 前期 2単位 大場 昌子

【授業目的・内容】

20世紀のアメリカ文学について、論文執筆に必要な指導を個別に行う。

【授業計画】

面談形式でテキストの解釈、批評の動向について指導を行い、論文を書きすめていただく。

【成績評価の方法】

完成した論文により評価する。

【使用テキスト・参考書】

必要に応じて、批評文をプリントしてお渡りする。

アメリカ文学特殊研究-2(ソーントン) 後期 2単位 ソーントン不破直子

【授業目的・内容】

20世紀アメリカ小説の研究を、受講生の希望を考慮して行う。

【授業計画】

個人指導となるので、受講生と話し合いで計画を立てる。

【成績評価の方法】

当初の計画を満たしているか、否かによって評価する。

【使用テキスト・参考書】

受講生の必要に応じて指導する。

アメリカ文学特殊研究-2(大場) 後期 2単位 大場 昌子

【授業目的・内容】

20世紀のアメリカ文学について、論文執筆に必要な指導を個別に行う。

【授業計画】

面談形式でテキストの解釈、批評の動向について指導を行い、論文を書きすすめていただく。

【成績評価の方法】

完成した論文により評価する。

【使用テキスト・参考書】

必要に応じて、批評文をプリントしてお渡しする。

英語学特殊研究-1(藤井) 前期 2単位 藤井 洋子

【授業目的・内容】

博士課程後期の学生に対して、論文執筆の指導を行う。特に、データ分析の精度、論理の展開、主張の妥当性などを中心に国際ジャーナルに投稿できるレベルを目標にします。

【授業計画】

個人面談を中心に進めていきます。

【成績評価の方法】

論文執筆までの仮説の立て方、データ分析の精度、考察の方向性、結論の妥当性などを中心に、研究・調査への取り組み方や方向性、進み具合とその内容の充実度合いを中心に評価を行います。

【使用テキスト】

それぞれのテーマに沿って、重要な理論や考え方を展開するために必要な文献並びに高いレベルの学術論文を中心に読み進めます。

英語学特殊研究-1(松森) 前期 2単位 松森 晶子

【授業目的・内容】

言語研究の方法(テーマの設定の仕方、仮説の立て方、結論の導き方、論文の書き方、等)について、それぞれの学生に合わせた個別の研究指導を行う。音声・音韻関係の論文を仕上げることを目的として指導する。

【授業計画】

第1回～13回

個別指導によって指導を行う。

【成績評価の方法】

面接での準備状況、レポートによる。

【使用テキスト】

それぞれの学生に応じて、論文などを紹介する。

英語学特殊研究-2(藤井) 後期 2単位 藤井 洋子

【授業目的・内容】

前期と同様、博士課程後期の学生に対して、論文執筆の指導を行う。特に国際ジャーナルに投稿できるレベルを目標にする。

【授業計画】

個人面談を中心に指導します。

【成績評価の方法】

論文執筆の進め方、データ分析の緻密さ、考察の深さ、論理の展開や主張の妥当性などを中心に、執筆された論文により評価を行います。

【使用テキスト】

前期に引き続き、それぞれのテーマに沿って、重要な理論や考え方を展開するために必要な文献並びに高いレベルの学術論文を中心に読み進めます。

英語学特殊研究-2(松森) 後期 2単位 松森 晶子

【授業目的・内容】

言語研究の方法(テーマの設定の仕方、仮説の立て方、結論の導き方、論文の書き方、等)について、それぞれの学生に合わせた個別の研究指導を行う。音声・音韻関係の論文を仕上げることを目的として指導する。

【授業計画】

第1回～13回

個別指導によって指導を行う。

【成績評価の方法】

面接での準備状況、レポートによる。

【使用テキスト】

学生に応じて、個別に論文を選び、それをもとに指導する。

イギリス文化特殊研究-1 前期 2単位 川端 康雄

【授業目的・内容】

イギリス文化研究に関して、研究テーマの設定や方法論、あるいは先行研究の調査などについて、指導をおこなう。

【授業計画】

第1回 導入

第2回 一次資料の読解(1)

第3回 一次資料の読解(2)

第4回 一次資料の読解(3)

第5回 一次資料の読解(4)

第6回 一次資料の読解(5)

第7回 一次資料の読解(6)

第8回 一次資料の読解(7)

第9回 一次資料の読解(8)



- 第10回 一次資料の読解 (9)
- 第11回 一次資料の読解 (10)
- 第12回 一次資料の読解 (11)
- 第13回 一次資料の読解 (12)
- 第14回 一次資料の読解 (13)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

個人指導に際しての議論、提出物によって総合的に評価する。

【使用テキスト】

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書(参考資料等)】

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【その他(受講生への要望など)】

面談日時は事前にメールで相談の上で決める。

イギリス文化特殊研究-2 前期 2単位

川端 康雄

【授業目的・内容】

イギリス文化研究に関して、研究テーマの設定や方法論、あるいは先行研究の調査などについて、指導をおこなう。

【授業計画】

- 第1回 導入
- 第2回 一次資料の読解 (1)
- 第3回 一次資料の読解 (2)
- 第4回 一次資料の読解 (3)
- 第5回 一次資料の読解 (4)
- 第6回 一次資料の読解 (5)
- 第7回 一次資料の読解 (6)
- 第8回 一次資料の読解 (7)
- 第9回 一次資料の読解 (8)
- 第10回 一次資料の読解 (9)
- 第11回 一次資料の読解 (10)
- 第12回 一次資料の読解 (11)
- 第13回 一次資料の読解 (12)
- 第14回 一次資料の読解 (13)
- 第15回 まとめ

【成績評価の方法】

個人指導に際しての議論、提出物によって総合的に評価する。

【使用テキスト】

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書（参考資料等）】

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【その他（受講生への要望など）】

面談日時は事前にメールで相談の上で決める。

アメリカ研究特殊研究-1（島田） 前期 2単位 島田 法子

【授業目的・内容】

アメリカ研究の分野の研究テーマをもつ受講者に対して、個別の研究指導を行う。

【授業計画】

必要に応じてアポイントメントによって、指導する。

【成績評価の方法】

論文の作成過程と論文の内容による。

【使用テキスト】

なし

【参考書（参考資料等）】

必要に応じて指示する

【その他（受講生への要望など）】

なし

アメリカ研究特殊研究-1（白井） 前期 2単位 白井 洋子

【授業目的・内容】

アメリカ研究を専攻する受講者への個別研究指導を行う。

【授業計画】

受講者の論文執筆の進捗状況にあわせて指導を行う。

【成績評価の方法】

提出された研究論文に基づく。

【使用テキスト】

受講者の研究テーマに基づく史資料の検討を含め、個別に指示する。

アメリカ研究特殊研究-2（白井） 後期 2単位 白井 洋子

【授業目的・内容】

アメリカ研究を専攻する受講者への個別研究指導を行う。

【授業計画】

受講者の論文執筆の進捗状況にあわせて指導を行う。

【成績評価の方法】

提出された研究論文に基づく。

【使用テキスト】

受講者の研究テーマに基づく史資料の検討を含め、個別に指示する。

平成 21 年度 Veritas 賞受賞論文

木田あかね

Self and Community in Toni Morrison's Fiction

平成 21 年度 島田賞受賞論文

齋藤麻衣子

A Sociological Analysis of the Economic Crisis of 2008: The Reasons  
Why Extreme Nationalism Did Not Emerge

平成 22 年度 修士論文題目

須田 絢子

The Death of the Narrators in the Short Stories of Edgar Allan Poe

花角 聡美

Ecology of John Ruskin: A Reading of “The Storm — Cloud of the  
Nineteenth Century”